

3 配慮の内容

環境要素ごとに配慮の内容を示す。それぞれの項目について、現状と照らし合わせて自己診断をし、最適かつ実行可能な配慮方法を検討するものとする。

ア 生活環境

視 点	・良好な生活環境が保たれるか
-----	----------------

配慮の視点			配慮の内容	Y E S	N O
立地	事業内容	工法・工期			
大気質	○		<ul style="list-style-type: none"> ・大気が拡散しやすい地形か ・周辺に住宅等の保全対象がある場合、その区域の保全ができるか ・現状の大気質に更なる負荷を加えることが問題とならない場所か 		
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガスの排出量は現状環境において容認される範囲か ・最新の排ガス処理技術の導入などにより、発生負荷量の抑制に努められるか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染を最小限に留める施工技術を採用できるか ・工事用道路のルートは保全対象への影響を最小限にするものとなっているか 	
騒音・振動	○		<ul style="list-style-type: none"> ・振動が伝播しづらい地盤か ・周辺に住宅等の保全対象がある場合、その区域の保全ができるか ・既に騒音、振動の発生がみられるところに更なる負荷を加えることが問題とならない場所か 		
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・無用な音を出さないか ・騒音、振動の大きさは現状環境において容認される範囲か ・影響が及びにくいような施設の形状、配置か 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音、振動を最小限に留める施工技術を採用できるか ・工事用道路のルートは保全対象への影響を最小限にするものとなっているか 	

配慮の視点			配慮の内容	Y E S	N O
立地	事業内容	工法・工期			
悪臭	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気が拡散しやすい地形か <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺に住宅等の保全対象がある場合、その区域の保全ができるか ・ 既に悪臭発生のみられるところに更なる負荷を加えることが問題とならない場所か 		
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭の発生量は現状環境において容認される範囲か ・ 影響が及びにくいような施設の形状、配置か ・ 悪臭発生を防ぐための最新技術を導入できるか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭を最小限に留める施工技術を採用できるか 	
水質	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉鎖性の低い水域か <ul style="list-style-type: none"> ・ 下流域に利水地点等の保全対象が有る場合、対象に応じた良好な水質を確保できるか ・ 現状の水質に更なる負荷を加えることが問題とならない場所か ・ 雨水排水への土壌の影響を勘案したとき妥当な立地か 		
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最新の排水処理技術の導入などにより、発生負荷量の抑制に努められるか ・ 事業による水質の汚染程度は、現状環境において容認できる範囲か 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質汚濁防止のための施工技術を採用できるか 	
地下水	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺で地下水の利用がある場合、現状の水質、水量を保つことができるか 		
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害物質による地下水汚染を発生させないように十分な対策が取れるか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水量や水質の変化を最小限に留める施工技術を導入できるか 	
土壌	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去に土壌汚染の発生がなかった区域か 		
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害物質による土壌汚染を発生させないように十分な対策が取れるか 	

配慮の視点				配慮の内容	Y E S	N O
	立地	事業内容	工法・工期			
地盤沈下	○			<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下しにくい地質か ・現状で地盤沈下がみられない地域か 		
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・地下水の揚水を最小限に留められるか ・雨水の地下浸透システムの導入は可能か 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下が生じないような工法の採用は可能か ・構造物の軽量化が図れるか 		
日照障害・電波障害・風害・低周波音・風車の影	○			<ul style="list-style-type: none"> ・周辺に住宅等の保全対象がある場合、その区域の保全ができるか ・現状の環境に更なる負荷を加えることが問題とならない場所か 		
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・構造物の形状、配置等を工夫し、影響の軽減を図れるか ・影響軽減のための最新技術を導入できるか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・影響軽減のための施工技術を採用できるか 		

イ 自然環境

視 点	・指標種で代表される動植物の生息環境を保全，創出できるか
-----	------------------------------

自然環境への配慮の内容について，指標種の例ごとに示す。
各表では，指標種の生息に必要な環境を「指標種が代表する環境のキーワード」として示している。

自然環境の分類	大規模な樹林
---------	--------

指標種				ヒグマ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
ヒグマが繁殖できる環境	○			
	○	○		
	○			
<p>「ヒグマ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった樹林 ・ミズナラやヤマブドウの多く生育する樹林や，フキなどの多く生育する沢 				

自然環境の分類	小規模な樹林
---------	--------

指標種				エゾリス
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
エゾリスを頻繁に見かけることができる環境	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹林を大きく減少させないか ・ 樹林の連続性を分断することによりエゾリスの移動を妨げないか
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 園芸品種植栽によって植物相を変化させないか
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音や光の発生を抑えることができるか ・ 林床植生の多様性を保てるか
<p>「エゾリス」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模な樹林 ・ クルミ、ミズナラ等、餌となる種子の多い林 				

自然環境の分類	小規模な樹林
---------	--------

指標種				キビタキ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
キビタキを頻繁に見つけられる環境	○			・繁殖地となりうる樹林を減少させないか
		○	○	・騒音や光の発生を抑えることができるか
		○		・キビタキの棲める林を創れないか
<p>「キビタキ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層構造の発達した小規模な樹林 ・在来種で構成された樹林 				

自然環境の分類	草 地
---------	-----

指標種			カッコウ	
配慮の視点			配慮の内容	
立地	事業内容	工法・工期		
カッコウの鳴き声が身近に聞こえる環境	○		・ 草地や小規模な林地を減少させないか	
		○	・ 園芸品種植栽によって植物相を変化させないか	
		○	○	・ 騒音や光の発生を抑えることができるか
		○		・ 托卵時期にあたる初夏の工事が避けられるか
<p>「カッコウ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な植物種で構成される、まとまった草地 ・ 托卵先となるノビタキ、ヨシキリ、ホオアカなどの鳥類が生息可能な草地 ・ 托卵先となるモズの生息可能な小林地 				

自然環境の分類	市街地の小緑地
---------	---------

指標種				アカゲラ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
アカゲラが営巣できる環境	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木を伐採しないか ・ 工作物の設置などにより移動ルートを分断しないか
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な植物種を保全，創出できるか
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音や光の発生を抑えることができるか
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 繁殖期の工事が避けられるか
<p>「アカゲラ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営巣のための樹洞が作れる太い樹木 ・ 採餌移動に利用できる樹木のネットワーク ・ 餌となる木の実や昆虫が豊富な多様な植物種 				

自然環境の分類	河川
---------	----

指標種			サクラマス			
配慮の視点 <table border="1"> <tr> <td>立地</td> <td>事業内容</td> <td>工法・工期</td> </tr> </table>			立地	事業内容	工法・工期	配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期				
サクラマスを数多く見かける環境	○		<ul style="list-style-type: none"> 産卵場となる川底を改変しないか 隠れ場や逃げ場を消失させないか 			
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 移動を阻害する構造物を設置しないか。魚道の設置は可能か 繁殖や卵、仔魚の生育を妨げる濁水を出さないか 水量を変化させないか 河畔植生を変化させないか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖期の工事が避けられるか 		
<p>「サクラマス」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 瀬や淵、水通しの良い砂利底など、産卵、生息に適した河川環境 稚魚等が隠れるための植物やくぼみのある岸辺 河口からの移動を阻害する構造物がない河川環境 						

自然環境の分類	河 川
---------	-----

指標種			イバラトミヨ
配慮の視点			配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期	
イバラトミヨが身近に見つけられる環境	○		<ul style="list-style-type: none"> 産卵場所を改変しないか 隠れ場や逃げ場を消失させないか
		○	○
<p>「イバラトミヨ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 水草や藻が生育する，産卵，生息のための小川や用水路 護岸されていない，自然の植生を残した岸边 			

自然環境の分類	沢
---------	---

指標種			エゾサンショウウオ
配慮の視点			配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期	
エゾサンショウウオが毎年見つけられる環境	○		<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖地となる池や沢だまりなどの水辺を改変しないか ・生息地としてのまとまった林地を改変しないか ・繁殖地と生息地の間の移動を妨げないか
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖地の水辺の形態や水質，水量を維持できるか ・移動の障害となる工作物はないか ・生息地の林床の大きさと状態が保てるか ・人が採集しやすくすることはないか
			○
<p>「エゾサンショウウオ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿潤な林床と多様な水辺が一体となった環境 ・繁殖に適したきれいな水辺 			

自然環境の分類	沢
---------	---

指標種			ヘイケボタル
配慮の視点			配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期	
ヘイケボタルの光が毎年見られる環境	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ヘイケボタルの生息する流水環境を消失させないか。復元は可能か。
		○	○
<p>「ヘイケボタル」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流れのゆっくりとした流水環境 ・餌となるカワニナなどが生育できる清流 ・産卵に適した自然の川岸 			

自然環境の分類	沢
---------	---

指標種				ニホンザリガニ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
ニホンザリガニが身近に見つけられる環境	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 沢や水たまりを覆う樹木を伐採しないか ・ 沢の護岸により移動を阻害しないか
		○	○	・ ニホンザリガニの生息できる水質，水量を維持できるか
		○		・ ニホンザリガニの隠れ場となる水辺の底質に変化を与えないか
<p>「ニホンザリガニ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沢や小規模な水たまり ・ 豊富な植生の水辺 				

自然環境の分類	沢
---------	---

指標種				オニヤンマ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
オニヤンマが身近に見られる環境	○			<ul style="list-style-type: none"> 産卵場となる水辺の改変を行わないか 水辺の植生を消失させないか 沢に隣接した樹林を減少させないか
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ヤゴの生育できる水質を維持できるか
		○		
<p>「オニヤンマ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 産卵のための、浅い砂泥底のゆるやかな流れ 水際からヤゴが這い上がれる、水生植物のある水辺 成虫のねぐらとしての、沢に隣接する樹林地 				

自然環境の分類	池, 沼
---------	------

指標種				マガモ
配慮の視点				配慮の内容
立地	事業内容	工法・工期		
マガモが毎年営巣できる環境	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 止水域を減少させないか ・ 周辺の草地を減少させないか
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠れ場所や繁殖場所を減少させるような水辺の改変をしないか
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質を悪化させないか ・ 騒音や光の発生を抑えることができるか
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繁殖期の工事が避けられるか
<p>「マガモ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営巣できる草むらのある水辺 ・ 餌となるイネ科植物が生育する草地 				

自然環境の分類	池, 沼
---------	------

指標種			ニホンアマガエル	
配慮の視点			配慮の内容	
立地	事業内容	工法・工期		
ニホンアマガエルの鳴き声が身近に聞こえる環境	○		<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖地や幼生の生息場としての沼や池を消失させないか ・幼体や成体の生息地としての草地や林を改変しないか 	
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンアマガエルが繁殖する池を創れないか 	
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・産卵や幼生が生息する水域の水質, 水量を維持できるか
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・産卵期から幼生期にかけての水域での工事が避けられるか ・繁殖期や変態上陸期の移動を分断しないか
<p>「ニホンアマガエル」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖に適した浅い止水域とまわりの草地 ・繁殖地の水辺と生息場所の草地や林が一体となった環境 				

自然環境の分類	湿地
---------	----

指標種			ミズバショウ	
配慮の視点			配慮の内容	
立地	事業内容	工法・工期		
ミズバショウが毎年花をつける環境	○		<ul style="list-style-type: none"> ・湿地等のミズバショウ生育地を減少させないか 	
		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水脈の分断等により生育地を乾燥化させないか ・生育地に汚水を流入させないか ・園芸種や帰化種によって植生を変化させないか
		○		<ul style="list-style-type: none"> ・人の踏みこみなどによって生育地が荒らされないか
<p>「ミズバショウ」が代表する環境のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池沼など湿地 ・汚染の少ない生育地 				

ウ 人と自然との触れ合い環境

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を特徴づける景観を保全できるか ・ 自然風景や街並みとの調和を保全，創出できるか ・ 身近に触れ合える緑や水辺を保全，創出できるか
-----	---

配慮の視点			配慮の内容	Y E S	N O	
立地	事業内容	工法・工期				
景 観	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な眺望点を保全できるか ・ 良好な自然景観資源，地域を特徴づける景観資源を守れるか ・ 優れた眺望景観を保全できるか 			
		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な眺望点からの眺望を遮らないような施設配置をしているか ・ 施設の規模，形状，色彩等は周囲の自然風景や街並みと調和しているか ・ 地形改変や樹木の伐採は最小限に留められるか ・ 地域の在来植生を生かした環境緑化や地域の自然環境の復元等，自然景観を保全，創出できるか 			
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観の特性に合わせた工法，工期の工夫は可能か 		
人 と 自 然 と の 触 れ 合 い 活 動 の 場	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に触れ合える緑や水辺を保全，創出できるか ・ 触れ合い活動の場の快適性は保てるか ・ 触れ合い活動の場へのアクセスルートを保全，代償できるか 		
			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工期は触れ合い活動への影響を最小限にするものとなっているか 		

エ 地球環境

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー効率の高い施設，設備，技術の導入は可能か ・新エネルギー技術の導入は可能か ・廃棄物の排出の少ない施設，設備，技術の導入は可能か ・再生品をできるだけ多く利用できるか
-----	--

配慮の視点			配慮の内容	Y E S	N O
立地	事業内容	工法・工期			
温室効果ガス	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コージェネレーションシステムや地域冷暖房システム等，エネルギー利用効率の高い技術，設備の導入は可能か ・太陽光発電，太陽熱供給，風力発電等，自然エネルギーの利用は可能か ・都市廃熱などの未利用エネルギーを活用できるか 		
廃棄物	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃棄物，残土の発生量の抑制に留意した工法を採用できるか ・発生する廃棄物，残土の処理は適切か。 ・再利用可能な建設副産物を有効利用できるか ・舗装骨材，建築資材等に再生資材をできるだけ多く利用できるか 		